令和　５年　８月

令和４年度　特別の教育課程の実施状況等について

静岡県		
学　校　名	管理機関名	設置者の別
聖隷クリストファー中学校	学校法人聖隷学園	私立

１．特別の教育課程を編成・実施している学校及び自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学　校　名	自己評価結果の 公表ウェブサイト名・URL 等	学校関係者評価結果の 公表ウェブサイト名・URL 等
聖隷クリストファー中学校	聖隷クリストファー小学校ウェブサイト 令和４年度　聖隷クリストファー中学校教育課程特例校実施状況（自己評価・学校関係者評価） https://www.seirei.ac.jp/elementary-school/hyouka	左に同じ

２．特別の教育課程の内容

（１）特別の教育課程の概要

聖隷クリストファー中学校グローバルスクールコースにおいては、聖隷の建学の精神である隣人愛を教育の基盤・中心としながら、日々変化を遂げる国際社会の中で活躍するために必要な高い英語力と能力、知識を備えた人材を育成するため、聖隷クリストファー小学校に引き続き、一部科目において英語イマージョン教育を行う。また、「知的好奇心を尊重した探究学習」及び「教科の枠をこえた探究学習」を学びの柱とする。

（概要）英語イマージョン教育を行う。

実施科目：社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、宗教、総合的な学習の時間、特別活動

（２）学校又は地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性

2020 年度以降の大学入試改革、学習指導要領の改訂に見られるように、今後ますますグローバル化への対応、問題解決型の主体的な学びが求められている。

浜松市北区では、グローバル展開している大手企業の移転（ヤマハ発動機株式会社、株式会社スズキ部品製造、スズキ株式会社浜松工場新設等）が進んでいる。今後、英語の必要性がますます高まり、グローバルな課題を解決するには、高い英語力と自ら問題を解決していく力が必要と考えられる。

しかし、国際化の時代を迎えた中で、現在の英語教育は、必ずしもこの状況に対応したものとなっていないのが実状であり、生きた英語、使える英語の習得に向けた教育が必要と考える。このような状況を踏まえ、子どもたちの英語力を伸ばすことによ

り、真の国際化時代に対応できる人材を育成するため、外国語に特化した教育＝英語イマージョン教育ならびに探究型教育を実施する必要がある。

（３）特例の適用開始日
令和４年４月１日

３．特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果
（１）特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- ○計画通り実施できている
- 一部、計画通り実施できていない
- ほとんど計画通り実施できていない

（２）実施状況に関する特記事項
各生徒の英語習熟度を鑑み、実施初年度である令和４年度は、社会、理科、数学については希望制で日本語による授業を選択可能にしたが、数学と理科については、年度末には全員英語による授業を受けることができる形になった。令和５年度は、社会は分野別に英語と日本語で授業を行い、数学と理科は全て英語で授業を行っている。

（３）保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- ○実施している
- 実施していない

＜特記事項＞
入学希望者向け学校説明会を複数回本校で実施した。また、教育セミナーを公開会場で実施し、本校の特別の教育課程に基づくイマージョン教育を広く保護者・地域住民に周知している。

４．実施の効果及び課題
（１）特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している学校の教育目標との関係
聖隷クリストファー中学校は、キリスト教の隣人愛の精神を基本に、真理と愛に立脚した国際的視野を持ち、世界の平和と人類の福祉に積極的に参画する人物の育成を目指している。グローバルスクールコースにおける本特例の実施により、生徒は英語イマージョン環境における教科学習や学校生活を通し、グローバルな視野と生きた英語力を身に付けていくことができている。また、探究型の学習により、主体的・対話的に考える力を身に着けていくことができている。そうした中、教室内における生徒同士のコミュニケーションは日本語が中心になっており、英語力の中でとりわけスピーキングの力をさらに伸ばしていくことが今後の課題である。

（２）学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

多国籍の教員が様々な教科を担当することにより、生徒が日常的に英語という言語だけでなく、異なる価値観や文化に触れることができており、世界に開かれた視野を養いながら、偏見や差別の無い国際社会の形成に寄与する力を育むことができている。それと同時に、国語教育や建学の精神である隣人愛を育む教育も重んじており、他国の文化や普遍的価値観と対比しながら自分自身を見つめ、自国の文化や自分自身の在り方を探究的に学ぶことができている。今後は、教室の外で実際に人々と触れ合いながら新たな課題を発見し、さらに深い学びにつなげる機会を持たせていきたい。

５．課題の改善のための取組の方向性

４に示すような課題を踏まえ、今後は生徒が英語でアウトプットを行うことができる活動を増やしていきたい。海外研修をその一つとして実施する。